

1. 日本選手権の開催

日本選手権を開催しようとするものは、原則として日本選手権開催予定年の前々年の12月までに必要書類（開催要項および地図）を揃えて、その旨をJHFに提出しなければならない。その内容の検討はJHFパラグライダー競技委員会で行い、開催の決定は開催予定年の前年の3月までの理事会において行うものとする。

2. 参加資格

日本選手権の参加資格は以下の4項目全てを満たすものとする。

- a) 日本国籍を有するもの（オープン参加の外国人は除く）。
- b) 有効なJHFフライヤー登録をしているもの。
- c) シード選手またはJHF正会員の連盟から推薦されたその連盟の代表選手。
- d) JHF正会員の連盟に所属しているもの。

オープン参加の外国人は日本国内で有効な第三者賠償責任保険に加入（保険金額はJHFフライヤー登録と同額以上とする）しており、なおかつ適切なフライト技術を身につけているものに限る。

3. 使用機体

使用機体はJHSC（JHTC）登録機とする。ただし、大会がカテゴリー2として開催される場合は次の規則どちらかを満たすものとする。

- a) 改造機及びプロト機はFAI S7B Par.2.13によるか、あるいはPWCルール Par.2.7による証明書が必要。
- b) 製品タイプ(JHSC,JHTC,CEN,DHV,SHV,FFVL,AFNOR,ACPULに登録されているもの)。

4. 大会の種類

大会はジャパンリーグ対象大会とする。主催者はFAIカテゴリー2大会とすることが望ましい。ゼッケンは日本選手権独自のものが採用される場合がある。

5. シード選手

シード選手は前年度日本選手権10位までおよび前年度ジャパンリーグワールドポイントランキング10位までのもの（重複があっても繰り下げはしない）とする。

6. 参加選手選抜方法

総予定エントリー人数からシード選手（前5項による）、正会員の資格を持った各都道府県1名、学生連盟枠3名、開催地元枠（正会員の資格を持った都道府県の場合に限り最大2名。ただし少なくとも1名は女子選手とする）および女子優先枠（総予定エントリー人数の10%。ただしシード選手もこの枠に含めるものとし、日本選手権開催前年度のジャパンリーグワールドポイントランキング上位から選出する）を差し引いた人数を日本選手権開催前年度のジャパンリーグワールドポイントランキング上位から選出する。

7. 大会の準備

プレ大会とも言うべき日本選手権と同規模の大会を予め開催し、経験を積んでおくこと。

8. 陪審員

大会開始前に2名以上の公式審判員からなる陪審員を設置すること。陪審員は抗議があった場合はこれを審議し、認否の決定を下す。この陪審員に関わる費用はJHFが負担するものとする。

9. 書類の提出

ジャパンリーグ大会の申請に必要な書類は日本選手権開催の三ヶ月前までに JHF パラグライダー競技委員会へ提出すること。

10. 補欠募集

主催者は予定エントリー人数に達するまで補欠募集をすることができる。その方法は前年度ジャパンリーグワールドポイントランキング上位者からとする。

11. 成立条件

日本選手権が成立するためには、開催日程最終日（予備日を含む）まで競技を行った上でジャパンリーグタスクとして2本のタスクが成立することが必要である。

12. 女子表彰

実際の女子参加人数が5名以上 **なおかつ参加選手総数の10%以上**であった場合、女子の1位を女子日本選手権者とする。**注：これはJ A Aから言われたもので、2006年版に入れ忘れたものです。**